

佐渡自然共生科学センター 准教授  
飯田 碧 IIDA Midori

専門分野

魚類生態学、水圏生物学

環境・エネルギー

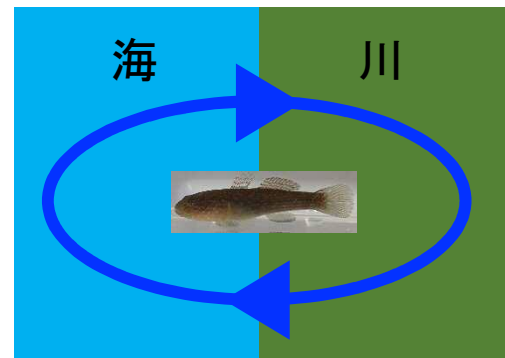
## 水生生物の生態から環境を評価する

キーワード 水生生物、環境影響、海と川のつながり

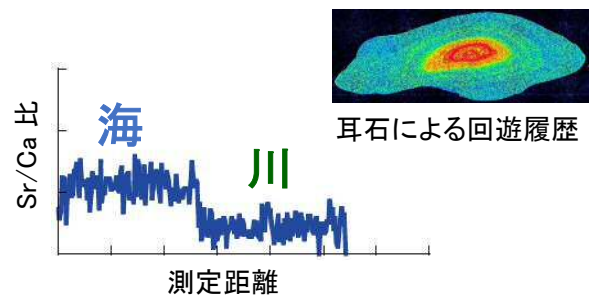
### 研究の目的、概要、期待される効果

魚類をはじめとする水生生物は、様々な環境要因に影響を受けながら生きています。野外の水環境は、温度や流れ、光、周辺の植生などの自然環境、陸域の利用様式や人工構造物の有無などの人為的な影響など、多様な要因で変化します。

当研究室では、主に海と川を行き来する通し回遊性の魚類を対象として、野外調査や微量元素分析などから生態の解明に取り組んでいます。通し回遊性魚類は、海と河川を一生涯の間に行き来するため、双方が生息に適する環境であることが必要です。佐渡島をはじめとする複数の地域での調査・研究から、海と川の利用形態が、種や環境によって様々であることが分かってきました。個体レベル、個体群レベルでの解析から、個々の種の生態や生息地の選択は、周囲の環境によって変動することも分かってきました。様々な手法でそれらを明らかにすることで、水域の環境の健全性の評価につながると考えています。



魚類、貝類、甲殻類などさまざまな水生生物が海と川を行き来する



微量元素分析により個体レベルで水域利用を明らかにする

関連する知的財産論文等

Migratory pattern and larval duration of an amphidromous goby, *Rhinogobius nagoyae*, at Sado Island, in northern Japan. M. Iida, K. Kido and K. Shirai. Marine and Freshwater Research. 2021

### アピールポイント

個体や個体群、環境について、あわせて調査・研究を行うことで、動物を指標として水域の環境を総合的に評価できます。

### つながりたい分野（産業界、自治体等）

・水域の環境評価を行いたい自治体や環境コンサルタント会社など